

## 具体的病院の改築等に係る病床機能の分化・連携のあり方

### 1 地域医療構想での位置づけ（構想からの抜粋）

#### 《2025年のあるべき医療提供体制を実現するための施策（置賜）》

- 難易度の高いがん治療や高度な放射線治療、緊急の治療を要するもののうち専門性が高いもの等については、村山構想区域内の三次医療機関と置賜構想区域内の基幹病院等との連携体制を構築していきます。
- がんのうち症例数が多いもの、脳卒中や急性心筋梗塞などの緊急を要するものについては、米沢市、東置賜・西置賜地域の各基幹病院等※を中心に急性期機能の病床を集約していきます。  
※米沢市：米沢市立病院、三友堂病院 東置賜・西置賜地域：公立置賜総合病院
- 肺炎、骨折など回復期に繋がることが多い疾病の治療、急性期後のリハビリテーションについては、地域の基幹病院以外の二次医療機関を中心に回復期機能の病床を確保していきます。
- 非稼働病床や病床利用率の低い病棟を有する急性期機能を担う病院においては、地域に必要な診療機能に重点化を図るとともに、病床規模の適正化を推進していきます。

### 2 置賜区域内の動き

#### （1）米沢市立病院・三友堂病院

老朽化に伴う米沢市立病院の建替えなどを念頭に連携方向で合意している。地域医療連携推進法人の設立も視野に入れ、関係者による検討委員会を設置し、年度内を目指し連携手法の大枠を固める方向で検討している。

#### （2）公立置賜総合病院・サテライト医療施設

「置賜広域病院組合医療機能のあり方検討委員会」を設置し、20年後を見据えた基本戦略を策定中である。老朽化が著しく耐震性にも懸念がある各サテライト医療施設については、改築時期が迫っている。

### 3 今後の検討の方向性（案）

- 救急医療や専門性の高い医療については、米沢市の患者は米沢市内の米沢市立病院及び三友堂病院を、東置賜・西置賜の患者は、公立置賜総合病院を受診する傾向が強い。このような患者動向を踏まえ、当面、米沢市と東置賜・西置賜地域に分け、急性期機能の病床の集約化の検討を進めていく。
- 米沢市、置賜広域病院組合の今後のあり方検討が一定程度進んだ時点でその状況について調整会議に報告を受けた後、病床機能ワーキングを設置し、今後のあり方に対する関係者の理解を求めていく。また、それぞれのあり方検討を進める上で必要となる支援策について、検討していく。